



ワシントンDCの美術研修

国際英語学科3年の佐藤マナさんは、2013年度「鳥と楽しむまち我孫子絵画コンテスト」で大賞を受賞し、今年の3月24日から31日まで、アメリカ、ワシントンDCで美術研修に参加しました。美術大学の先生をしている日本人女性のお宅にステイし、ポーランド出身のご主人に手料理をご馳走になったり、タイル製作を体験したり、美術館や美術大学を訪問したり、ガーデンパーティに参加したり



と、得がたい体験をしたようです。この体験をもとにさらに飛躍してくれることと思います。

チアダンス世界大会 出場

教育学部 幼児教育学科 2年 江口 舞

【日 時】2014年4月22日～5月1日

【場 所】アメリカ フロリダ州

【大会名】ICU world cheerleading championsip

【成 績】第二位

【日 時】2014年4月26日～4月28日

【場 所】アメリカ フロリダ州

【大会名】Dance Worlds 2014

【成 績】Open Pom 部門 第三位

私は、チアダンス世界大会に日本代表 Team Japanの選手として出場しました。試合直前に怪我をし、痛みと闘いながらの

練習でしたが、コーチ、チームメンバーや応援してくれた沢山の方々のご支援のお蔭で、上記のような結果を残すことができました。

今後、このチアダンスの経験を活かして、よりよい保育者になれるように、頑張っていこうと思います。



社会教育学科 2年 花田 敦美



私は、我孫子市民図書館で、週1回程度、臨時職員として働いています。

仕事は主として、返却カウンター業務や本の配架、書架整理です。本の配架は、児童書や一般書、CDなど、返却された多くの資料を所定の位置に戻す作業です。書架整理は、乱れている資料の整頓をします。

そのため、慣れない間は、筋肉痛に悩まされたり、書架の位置が覚えられず苦労しました。現在は仕事にも慣れ、書架の位置も殆ど覚えています。将来は司書として、利用者が利用しやすい図書館づくりに貢献したいです。

児童教育学科 2年有志

私たちは、6月1日に我孫子市で開催された「こもれびフェスタ」にボランティアとして参加しました。この「こもれびフェスタ」は、近隣センターこもれびを活動基盤とした、地域のまちづくり活動の一つになります。

今回私たちは、AKB48のフォーチュンクッキーのダンスをオープニングで踊ることと、子どもカルチャー教室の運営を主にお手伝いしました。オープニングのダンスでは、同

じくボランティアで参加されていた我孫子中学校の生徒さんや、小さなお子さんを含む地域の方々と一緒になって踊りました。また子どもカルチャー教室では、バルーンアート、手作り楽器、資源を利用したおもちゃ等を子どもたちと一緒に作りました。

子どもたちと触れ合い、活き活きとした姿や表情を見て、パワーをもらおうと共に、改めて子どもと向き合う魅力を感じました。

大学の外の様々な方と出会えたことは、人と関わることへの自信を深めることができたように思います。将来教師になる上で、今回の経験を大きな糧にし、活かしていきたいです。



生活文化学科 3年 對馬 芽衣

私はStudent Adviser略してSAの部長をしています。SAとは学生生活がより良いものになるように学内での行事やイベントを企画・運営する部活です。私は一年生の時にSAに入ってから「味の素料理教室」、「ケーキ型マグネット作り」、といった新しい企画を実施しました。現在は夏休み明けに開催する「BBQ大会」を企画しています。新しい企画を立てることは、思いもよらぬ困難にぶつかることが多く悩んだこともありましたが、しかしSAの仲間、担当の先生方、その他の教職員、友人と協力し、ここまで部長をやってくれました。これからも学生の



みなさんにとって、より良い学生生活が送れるよう手助けが出来れば良いと思っています。

卒業生は今

佐藤 唯

心理学科 2010年卒

宮城県教育委員会
スクールカウンセラー



私は石巻・東松島・女川の3地域4校で、スクールカウンセラーとして働いています。仕事の主な内容は、子どもや保護者、先生からの相談、授業観察です。場合によっては心理検査をすることもあります。

よく、震災による子ども達への影響について質問されますが、一概に影響があるとは言えません。

災害、事件、事故等、起こり得るトラブルは様々あります。私は相談役であると同時に、子供たちを見守る“目”でありたいと思います。

田中 芙蓉

国際英語学科 2012年卒



現在はデルタ航空のチェックインカウンター、ゲート、到着業務を中心に深夜のフライトに合わせ職務に就いております。羽田発アメリカ線を担当しておりますので、欧米人の方が多く、世界中の方々と接することが出来て、とても刺激的な職場です。

編集後記

●来年も秋の公開講座に大勢の方が来て下さることを願います。(N.O.)

●上橋菜穂子先生の受賞記念特別講演会をご紹介できて嬉しく思っております。授賞式はメキシコで催されたとか！ますますのご活躍をお祈りします。(N.H.)

発行日/平成27年1月20日
第36号発行

制作/川村学園女子大学
広報委員会

花時計 vol.36

Kawamura Gakuen Woman's University

2014

川村学園女子大学



特集 学長・副学長を囲んで

創立90周年式典
鶴雅祭
公開講座
教員紹介
BOOKS 新刊紹介

オリエンテーション
学科ニュース
クラブ活動報告
耀いている学生たち
卒業生は今 ほか

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
Tel. 04-7183-0111(代) Fax. 04-7183-0115
ホームページ <http://www.kgwu.ac.jp/>

学長・副学長を囲んで



就任されたばかりの熊谷学長、吉武副学長を囲む座談会が行われました。抱負や、学生時代のお話、これからの女性の生き方、本校学生への期待など、学生3人が聞きました。

日時：6月4日(水) 14:30~16:00 場所：学長室 司会・進行：梅村恵子先生

就任にあたって

小林 学長・副学長、ご就任おめでとうございます。学長・副学長ご就任に際し、ひとこと、抱負をお聞かせください。

熊谷 私たちが育った頃というのは高度成長期の時代で、前へ前へと進む時代でした。私なども西洋に夢があって、人生が、どこまでも明るく感じる時代でした。その後、バブルが弾け、様々なことがあり、今日では、少子高齢という、大変、難しい時代に入ってしまったんですが、私の性格からしますと、追い込まれないと「モチベーションが上がらない」というところがありまして、今日の困難な状況下では、むしろ燃え始めております。それが抱負です。

吉武 学長補佐というのは、非常に大事な仕事であると考えております。大学全体の仕組みが、学生の方が希望する教育の内容を実現するわけです。ですので、学長補佐をするに当たって、まわりを支える様な役割を担っていきたいと思っています。

曾我部 熊谷先生のお祖母さまは、川村学園の創立者川村文子先生だとお伺いしました。文子先生との思い出をひとつお話をください。

熊谷 覚えているのは、とても厳しい人だっ



出席者 熊谷園子 学長

たということです。会食のときにはきちっとしなければならぬ、といったイメージでした。大人になってから、偉大であることに気づきました。とても緊張感のある方でした。

これからの女性のあり方

石井 “感謝の心”を基盤とし、21世紀を生きる女性として必要なことは何でしょうか？

熊谷 私自身、大人になって結婚相手を見つけて結婚することが女性の人生だとは思えなかったのです。当時の教育では、女性は「うち」という感じが支配的でしたが、私は、そんな考えは絶対に嫌でした。

今の時代は逆で、女性が社会で働かないと社会は成り立って行きません。そういう点では、私たちの頃より自由です。私は今の若い人たちに、ぜひ、自分の人生を自分で開拓して、そして、自分の意見を持って、社会を良い方向に導く事ができる女性に育って欲しいと思っています。小さな事でも自分で決め、自分で責任を取りたいと思って欲しいと思います。

曾我部 吉武先生は九州男児だと伺いました。川村の建学の精神のうち“自覚ある女性”をどう捉えていらっしゃいますか？

吉武 博多の生まれなのですが、なんだか野蛮な感じですね(笑)。商人の街、博多を支えているのは、女性の力です。そういう意味では、文子先生のおっしゃった女性としての自覚は、博多の女性と通じるところがあると思います。川村の先輩たちも、家のことを積極的に手伝う人が多かったようです。そして、文子先生はあのころから英語を学ぶことが大切だと気づき、いまの時代を支える女性を育てていらしたのです。

小林 吉武先生に、女子大学の印象をお伺いしたいです。

吉武 高校は共学なのですが、元々男子校

だった高校なので、学年の1割ぐらいしか女子の生徒がいませんでした。幸いにも毎年クラスに、3・4人は女子がおりましたが(笑)。そんなわけで女学生のことは良く分からないのですが、川村の女学生の印象はというと、非常に真面目で、よく自分で考える。それから、男性的な表現をすると、質実剛健、要するに、地に足がついている学生が非常に多くいらっしゃる。とても意欲的で、勉強しようという気持ちが強いと思います。ですから、授業をやっている際にも、よく勉強しているなという印象です。

当時の大学生活

石井 学長、副学長が大学生時代に頑張っていたことはなんですか？

熊谷 頑張っていたことは2つあって、1つはやはり勉強で、そして大学院に進むこと。そしてもうひとつは、クラブに所属して、グライダーをやっていました。高い所が大好きなのです。子どもの頃も、目白の川村の学校の敷地の端の方に自宅が在って、そこに行くのに毎日塀の上を歩いて行くくらい高い所が大好きで、それで空を飛んでいました。

高いところも好きでしたが、同時に、何かを突き詰めて考えることも好きで、それで、大学院に行ったのだと思います。論文などをまとめるために、真夜中まで一つのことに集中しているうち、我を忘れて没頭する瞬間があり、それで、この道を来たのだと思います。



出席者 吉武民樹 副学長

吉武 法学部出身なのですが、法律そのものはあまり勉強していないんです。それはもちろん、一応、勉強したけれども、結局、大学をでた後、公務員になりましたのでね。

公務員というのは、実際の仕事について専門的なことをやるのです。ちょうど大学1、2年の時、今でいうと教養学部みたいなものがありまして、そのときに政治学のゼミみたいなものを受けていたのです。

法律とはあまり関わりなく、政治学だと社会学を、もう亡くなられましたが佐藤誠三郎先生に、4、5人で教わっていたのです。アメリカのビジネススクールのやり方だと思うのですが、毎週一冊本を読んで、4、5



人でまとめて、レポート書いて発表するというものです。

本当に、大学のときに、これをしていて良かったなと思います。法律の知識より外で、政治学とか社会学という、大きな所で役立っていきますから。

いま東京都知事をされている舛添さんも一緒にゼミで、政治学者に成られたのも、このゼミに触発されたのだと思います。

曾我部 もし、いまの大学生になれるとしたらどんな事をされたいですか？

熊谷 もしかしたら、ダンスをやっているかもしれない、思いつきね。案外、自分の人生やり直したいとかっていう意識が全然なくて、若くなりたかって気持ちも昔からないので。ですから、あまり考えたことなかったですが。

でも、自分がやりたかった幾つかのことの中の一つの別な道もあったかもしれないので、そしたら、ダンスかなと思います。幼少期からバレエを習っていて、踊ることは好きです。踊りは、バレエとは限らず、色んなジャンルでも大丈夫です。ジャズダンスも、ヒップホップも(笑)。

吉武 あまり仕事のことは結びつかないと思うのですが、ひとつは語学ですね、もし戻れば。僕は、たまたま若いときにイギリスに行かせてもらって、しかもその時、イギリスに一人で行ったので、そこで英語を勉強したところがあって、ラッキーだったのです。そういうことが無ければ、英語の力も、充分じゃなかったのだと思います。

大学の時に、第2外国語でフランス語をやっていたのだけれど、先生はすごく良かったのですが、ちゃんとやらなかったのです。高校の時から、英語はすごく好きで、大学生になっても英語はちゃんとやったのです。でも、時間があったのだから、フランス語でもいいし、ドイツ語、スペイン語、中国語でもいいからやっておけば良かった。

自分の母国語以外に幾つか知ることとは、大きく世界が広がるかもしれませんが。それは言葉以外にも、文学も共有できるし、音楽も共有できる、そういうことをきちんとしておけば良かったと思います。

また、大学に入るときに理科系が好きだっ

たんです。どっちにしようか迷っていて、兄弟が理科系に進んだから、じゃあ僕は文科系に進もうって決めたのです、いい加減だけ。そういう面で見ると、いまでも、素粒子、宇宙論みたいなことにも関心がありますし、人間の身体という意味では、生化学や生物学など、すごく興味がありますね。

だから、もしもう一度、大学生できるのだしたら、そういうことを幅広く勉強したいなと思います。法律をやりたいなんて、全然思わない。その2つですね、そういう分野をやりたい。

いまの学生たちに思うこと

小林 今の学生のいいところ、悪いところをお伺いしたいです。

熊谷 私たちの頃ってみんな、目立ちたくて、教室でも、はいはい手を上げていたのです。昔は人口も多くて、1クラス60人なんていう環境でした。そういう中で皆すごい勢いがありました。そういうのに比べると、今の人たちは横を見て目立たないようにしようとするところがあって、出るのを控えているっていうのが不思議だなと思います。

昔、私たちの頃は、女性は抑圧された環境であつたにもかかわらず、私たちはものすごく前に出たくて、はいはいってみんな手をあげてたのが、今、少しそういうところがなくて、ゼミなどで意見を聞くときも、とても上手に、次は誰というようにしていかないと答えないとというのがあります。

良い意味でも、悪い意味でもその場の空気を読みすぎてしまう。やはり、私たちの学生の頃とは違うのだらうと思います。そういう中で今の人たちも、私たちのように色んな苦勞をしていくのだらうと思います。それから、自分の考えや熱い思いを、どういうふうに表示したり、生きているのかなっていうのを、むしろ私は学生さんたちに聞きたいと思っています。

吉武 非常に素直であるという感じがあります。私たちは団塊の世代と言われていて、ある意味、暴れてきたような世代です。でも、皆さんは、きちんとやるところと、継続してやるというところを評価していると思います。

もうひとつは、日本経済が一番大変な時代に育ってきて、皆さんのもう少し先輩などは、よくそれに耐えていると思います。耐えてきて大変なことですが、そこは、そういう時代をずっと経験してやってきているということは、評価されていいことだと感じます。ひとつ、悪い点をあげるとすれば、横を非常に気にするところだと思います。ただ、自分のことをよく見ているので、自分でよく

分かっているんだと思いますが、そういったマイナスはプラスになるということです。

100点満点で95点ってというのは、もう増えないということです。95点を98点にすることは至難の技ですから。どんなに変わったってせいぜい96点です。でも、70点なら、人はすぐ80点になります。自分は70点だから大変だなんて考えないで、30点プラスの要素があるという発想をしたら良いと思う。

若いうてすごくて、若いっていうのは時間がある。極端なこと言えば、選択し直すことも出来る。そうするとマイナスはいつまでもマイナスじゃない。最初に2つ褒めたことと結びつけることができれば、素晴らしいと思います。大変期待しております。

将来へのアドバイス

石井 最後の質問になりますが、将来に希望と不安を抱える私たちにアドバイスをお願いします。

熊谷 私も子どもが居たけれど、一生懸命頑張って、仕事もやりたいこともやってまいりました。これは自分の人生だから頑張ったのです。もちろん、なんでも頑張ればみんな良い結果に繋がるとは簡単には言えないけど、ここで引いたらこれでおしまいになってしまうという風に考え、どこかで腹をくくらねばならない部分は人生にあるから、そこを頑張ったのかなと思います。

将来に不安は在るけれど、自分が本当になりたいものがあるならば、それは石にかじりついてでもやらなくちゃならないことであつて、私の場合だと、大学院の時に子どもを2人生んでいて、卒業に4年かかりましたけれど、やめませんでした。今頑張らないと、子どもが大きくなってから入り直すのはもっと忙しくて厳しくなるからと、どこかで死に物狂いで頑張っていたのだと思います。人生において、自分の中で頑張らねばならない局面が必ずあると思うので、そのときに頑張ってほしいです。

吉武 大変なときにやめないことです。大



出席者 文学部史学科4年 小林美貴
教育学部児童教育学科4年 曾我部那奈
生活創造学部観光文化学科2年 石井 悠

変さというの、色々、在りますが、若い方には、めちゃくちゃ大変ってそんなにないです。それで、大変さがだんだん大きくなって行くのですが、その大変な事をやり遂げる。その経験が、次の大変な時に自信に繋がる。自分の力になるわけです。

もうひとつは、本当に親しい友だちを、少なくともいいから持つことです。私の経験から言うと職場の人より、中高や大学の

時の友だちかなと思う。それが、大変な時に話を聞いてくれる友だちです。一人で大変なことに立ち向かうのはすごく辛いです。比叡山で「一隅を照らす」といいますが、それは、片隅を照らすのではなく、一隅とは自分の居るところです。どんなに大きな仕事をしている人でも、世界からみれば一隅なんですね。

だから、人間はやはり、ノーベル賞を貰

おうが、文化勲章を貰おうが、「自分がやる事」が大切なわけで、勲章がもらえないから意味が無いということではなく、自分がやっている大切な事は、必ず世の中に貢献しているのです。そういう気持ちでやっていく。その為には継続する力が大切で、悪口をいう人がいても負けないということです。そして、その時に、力になってくれる、支えてくれるのが、友だちなのです。

国際英語学科と観光文化学科が 国際都市・東京で新たなプログラムを展開

2015年4月から、国際英語学科と観光文化学科が新たに目白キャンパスでスタートします。学部の異なる2学科が、それぞれの特徴をいかし、お互いに協力してグローバルなカリキュラムを展開します。国際英



語学科が展開する多彩な英語や言語・文化等の授業と観光文化学科が設けている豊富な観光系の授業をクロスオーバー学習で履修できるほか、アジアやヨーロッパの言語、英語で展開する共通教育科目などをとりそ

ろえ、国際化に対応できる自立した人間教育をおこないます。

国際英語学科では、アクティブ・ラーニングで英語スキルを徹底的にきたえ、「文化」「言語・教育」「国際関係」という3つの柱のもとに知性を磨きます。新カリキュラムでは、2020年の東京オリンピック時に必要とされる

通訳のボランティア育成のために、通訳・翻訳の講座を設けました。英語のスキルと教養をバランス良く身につけ、グローバル・コミュニケーションのスペシャリストとしてさまざまな分野で活躍できる人材を育成します。

観光文化学科では、近年急増している海外からの観光客に対応できる能力を養います。そのために、まず日本と海外各地の観光および文化の違いを学び、外国語でのコミュニケーション能力を高めます。また、観光地やホスピタリティ産業の現場でさまざまな実践をしながら理論を確認するカリキュラムで、幅広くサービス業で活躍できる人材を育成します。

1年次から卒業までの4年間を東京の山の手、目白で過ごし、自身で国際化を体験することができる最高の環境が整えられています。

卒業生のみなさまに —『花時計』の発送は同窓会入会の皆様だけに変更されます—

大学と学生、卒業生を結ぶ広報誌『花時計』は、これで36号となりました。毎号、広報委員の先生方が集まって編集会議を開き、企画から執筆依頼、原稿集め、ページ割り、校正と庶務課の担当職員の手を借りながら、なんとか年2回の発行を続けてきました。

創刊当時は、在学生だけに配られていた本誌でしたが、第1回の卒業生を送り出した年からは、在学生だけでなく、卒業生全員のもとへお送りするようになりました。当然ながら卒業生は年々増加し、現在では約8,600名に及ぶ卒業生の皆様に年1回2号分をまとめて本誌をお送りしています。ただ、残念なことに、卒業後の住所が不明な方もおり、むなしく大学に戻されるものも増えています。

卒業生の親睦と活躍の場として大学の同窓会が発足したのを機に、広報委員会でも『花時計』の発行形態、編集方針などの再検討をしてみました。その結果、『花時計』の発行は年1回とするかわりに、ページ数を増やして充実した特集を盛り込ん

でいく。卒業生への送付は同窓会に入会された方々に限り、在学生には従来どおりとする。学園の同窓会誌『ゆかり』に大学のページをいただき、『花時計』に掲載できなかった新情報を、ここに移行する。などの変更を提案して、大学からの了解をいただきました。

お手に取られておわかりのように、本号からページが増え、レイアウトや特集も新しくなりました。まだまだ手探り状態ですが、次号ではさらに、「川村学園女子大学」の今、を伝える誌面を充実させていきたいと、編集委員一同、決意を固めています。

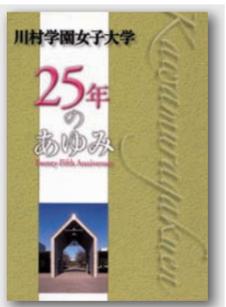
卒業生の皆様全員に『花時計』をお送りするのは本号が最後となりました。懐かしい学園生活の縁として、また、卒業後中断していた活動を呼びかける場として、同窓会や『花時計』は大きな手助けとなることでしょう。このような趣旨にご賛同をいただき、ごぞって同窓会へ入会して下さること、次号の『花時計』が皆様のお手元に届くことを信じています。

川村創立90周年記念式典



川村学園女子大学創立25周年を迎えて

1988年4月1日、川村学園女子大学が我孫子の地に発足して25年がすぎました。さらに、今年には川村学園の創立90周年にもあたります。そこで、学園と大学との記念の年にふさわしい事業を一昨年から立ち上げてきました。その一つが『川村学園女子大学25年のあゆみ—川村学園90年史』の編集事業です。大学創立以来の歴史を、たくさんのカラフルな写真や懐かしい教授陣のエッセーなどでたどっています。また、学園の歴史や建学の精神をわかりやすく解説した『こころ』（1年生の総合講座のテキスト）からの抜粋によって、大学が学園と一体の学びの場であることがまとめられています。『25年史』は市販されていませんので、大学の図書室・同窓会室などで御覧下さい。なお、川村学園のホームページからPDF画像で全ページが公開されています。少し重たくなりますが、ダウンロードしてみてください。



第26回 鶴雅祭 10月25日(土)、26日(日)

テーマ：ツナグ ~みんなの想いは無限大~

今年も盛況のうちに終了いたしました。鶴雅祭を成功へと導いてくださった皆様に御礼申し上げます。



公開講座

公開講座① 心理相談センター

7月13日(日)に「子どもと親のこころのケア」と題し、心理相談センター公開講座が開催されました。講座1は「ひきこもり」というテーマで、ひきこもりの様々な背景や症状、当事者への対応について簗下成子先生に講演頂きました。具体的には「おりじなる」ということで、「①おいつめない」「②りらくす」「③じっくり」「④なかま」「⑤るす」という5つの対応方法について話してくださいました。①当事者を追い詰めないこと、家族も自分を追い詰めないことが重要である、②当事者がリラックスできるように家族がリラックスして生活し、楽しい会話を心がけること、③腰を落着けた対応が

重要であり、医療機関を転々としたり対応の仕方を頻繁に変えることは逆効果である、④人に頼ることが大切で、家族だけでも相談機関に行くこと、⑤当事者と適度な距離をもって接することが必要であり、家族が過度に家を空けることが良い、ということ具体的に教えてくださいました。講座2は「子どものこころの問題」と題し、蓮見元子先生に講演頂きました。特に小学生・中学生に焦点を当て、事例を交えてお話してくださいました。彼らのこころの問題は、いずれも学校に行くことと関係しており、問題の原因は様々な要因が複合的に絡まっていること、様々な問題を抱える子どもは“叱るよりどう

したらいいのか教えて」と言いたいはずであること、子どもは真に言いたいことを言わずむしろ逆のことを言うため、大人が推察することが必要である、ということをお話頂きました。また子どもは母親の笑顔に常に求めており、母親も子どもがどれほど愛おしいか言葉にすることが大切で、たくさん子どもに語りかけコミュニケーションをとることの重要性について教えてくださいました。参加者は100名以上となり、大変好評を得ました。今後もこのような活動を通じて、地域に開かれた「こころの相談室」として尽力していきたいと思っております。

公開講座③ 秋期 川村学園女子大学公開講座

テーマ：音の世界を語る・色の世界を語る

10/18(土)	①平安の調べを聴く ー雅楽の響きー	辻 浩和
	②赤い王朝、黄色い王朝 ー五行説の世界ー	高津 純也
11/1(土)	③音コミュニケーション ー作曲で体験する音楽療法ー	簗下 成子
	④音を文字で表すオノマトペの世界 ー「しとしとぴっちゃん」は英語に訳せるかー	小山久美子
11/15(土)	⑤日本の美術にみる色彩と文化 ー青の世界ー	荻原 延元
	⑥村の民謡は創造の翼 ーハンガリー 20世紀の二大作曲家の音楽を聴くー	尾見 敦子
11/29(土)	⑦「紫の物語」としての「源氏物語」	森田 直美
	⑧金色の夢 ーオリエントの失われた黄金ー	山本由美子



統一テーマによる公開講座は、平成24年の「女性と文化」、平成25年の「東と西の物語」に続き、今年度は「音の世界を語る 色の世界を語る」と題して開催されました。今年度の講師は若手の先生も多く、参加した皆様にも新鮮な学問の香を味わっていただけたのではないのでしょうか。赤、黄、青、紫、金といった色彩が表象するもの、日本の雅楽から東欧の音楽まで、その音色の意味する背景や音の役割をとらえることまで、興味深い講演ばかりでした。今年も大勢の地域の皆様に満足していただいたようです。

忙しい仕事から、子育てから離れ、知的空気を胸いっぱい吸ってリフレッシュしたという卒業生の声も寄せられています。

来年の公開講座の企画をお寄せください。ぜひ、実現させたいと思っています。

国際アンデルセン賞受賞記念

公開講座② 上橋菜穂子先生 特別講演会

本学特任教授の上橋菜穂子先生が国際アンデルセン賞を受賞されたことを記念し、7月13日(日)のオープンキャンパスにおいて、特別講演会が開かれました。

講演に先立ち、我孫子市の「市民文化スポーツ栄誉賞」の授賞式がとり行われ、市長の星野順一郎氏と教育長の倉部俊治氏より、賞状、メダルおよび花束が贈呈されました。

講演は「物語に魅せられて ～歩いてきた道、そして、これから～」と題され、アンデルセン賞の受賞が決まるまでの経緯がユーモアたっぷりに語られて、300人近い聴衆を集めた会場は笑いの渦に包まれました。また、幼いころおばあちゃんが語ってくれたお話や、国内外の文学作品との出会い、文化人類学者としてのオーストラリアでの経験など、さまざまな「物語」との関わりが、どのように物語作家としての今日の自分につながったかを、情景が

目に浮かぶようなエピソードとともに語って下さいました。

講演の後は質疑応答が行われ、作品の解釈や海外訳などについてたいへん具体的な質問がフロアから出ました。予定の時間を大幅に超過して盛り上がりました。



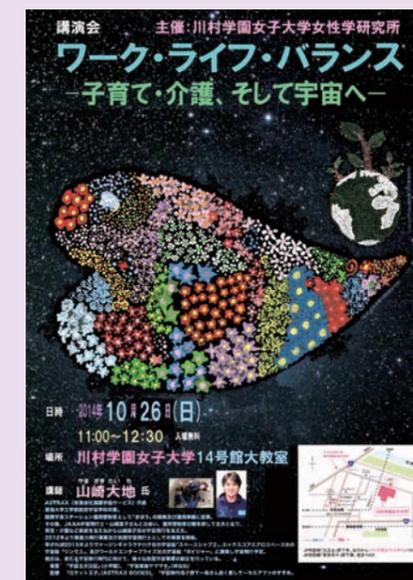
公開講座④ 女性学研究所 ワーク・ライフ・バランス ー子育て・介護、そして宇宙へー

平成26年10月26日(日)
11:00~12:30 入場無料

場所：川村学園女子大学 14号館 大教室
講師：山崎 大地
(有限会社国際宇宙サービス (ASTRAX) 代表取締役社長)
(山崎大地オフィシャルサイト <http://tem794.wix.com/taichi-01>)

現在は、自らの宇宙飛行の準備を行う傍ら、日本とアメリカを中心に宇宙旅行時代に向けた新たな民間宇宙ビジネスの創出や、執筆や講演活動などを行いつつ、教育機関や企業向けの最新宇宙ビジネスに関わる事業や講演、男女共同参画関連の講演、夢の実現などについて自身の経験を広く伝える活動などを行っている。

著書に「宇宙主夫日記」(小学館)、「宇宙家族ヤマザキ」(祥伝社)、「ロケット王子(監修)」(ASTRAX出版)、「宇宙時代の子育て 母さん 佳く愛して～セルフアファのすすめ～(監修)」がある。



新任教員

よろしくお願いたします。

 <p>幼児教育学科 永井 理恵子 (教授)</p>	 <p>児童教育学科 田中 孝一 (教授)</p>	 <p>観光文化学科 寺本 久男 (教授)</p>	 <p>史学科 辻 浩和 (講師)</p>
 <p>日本文化学科 森田 直美 (講師)</p>	 <p>児童教育学科 松本 祐介 (講師)</p>	 <p>生活文化学科 関目 綾子 (講師)</p>	 <p>観光文化学科 渡辺 徹 (講師)</p>
 <p>心理相談センター 西村 知香 (助手)</p>	<p>教員の昇任 准教授から教授 藤原 昌樹 教育学部 社会教育学科</p> <p>教員の異動 蓮見 元子 (教授) 児童教育学科 → 心理学科 梅村 恵子 (教授) 史学科 → 日本文化学科 内海崎貴子 (教授) 幼児教育学科 → 日本文化学科</p>		

ありがとうございました。

退職教員

国際英語学科 谷林 真理子 (教授)	日本文化学科 斎藤 幸子 (教授)	日本文化学科 今関 敏子 (教授)	日本文化学科 酒井 正子 (教授)
日本文化学科 安川 里香子 (准教授)	児童教育学科 渡邊 光洋 (教授)	児童教育学科 浅井 文三 (助教)	社会教育学科 山口 善久 (教授)
生活文化学科 永吉 道子 (教授)	観光文化学科 豊川 洋 (教授)	観光文化学科 石井 龍一 (教授)	観光文化学科 江田 洋子 (教授)

大学院担当 (新任)

比較文化専攻 博士後期課程 西川 誠 (教授)	比較文化専攻 博士前期課程 佐藤 浩子 (教授)
比較文化専攻 博士前期課程 高橋 亮介 (講師)	比較文化専攻 博士前期課程 山名 順子 (講師)

同窓会facebookできました

 川村学園同窓会大学支部として平成25年11月に川村学園女子大学同窓会が発足し、このたび公式Facebookを開設いたしました。
検索は、川村学園女子大学同窓会 (大学支部)です。是非、ご覧ください。
なお、同窓会へのご連絡は下記のメールアドレスへお願いいたします。
dousoukai.kgwu@gmail.com

社会教育学科の学生募集停止のお知らせ

社会教育学科学科長 坂口 早苗

平成3年に、「みんなの学び」と「みんなの幸せ」を目標に創設された社会教育学科は、20年あまりにわたり、小・中・高校・大学の教員、各種公務員、各種社会教育施設・福祉施設の専門職員などの幅広い分野で活躍する、1,000名を超える卒業生を輩出してきました。
しかし、現在の「社会教育」「生涯学習」を取り巻く環境は、めまぐるしい社会状況の変化の中で、必ずしも順風満帆ではありません。平成20年には、新学習指導要領が告示され、どの教科においても、人生という時系列に沿った垂直的な次元の教育機能の統合が段階的に図られ、「誰

もがいつでもどこでも”学習することができ、また、学習成果を活かすことのできる「生涯学習社会」の実現を目指すこととなります。
この潮流にしたがい、本学においても生涯学習は特定な学科のみではなく、全学的に取り組むこととなり、社会教育学科は平成25年度の学生募集をもって発展的解消を行い、教育課程の大半は既存の学科で受け継がれていくこととなりました。長年、慈しみ育てて参りました学科がなくなることに、寂寥の念を抱かされますが、ここにお知らせ申し上げます。当学科にかかわってくださいました多く

の先生方に感謝を申し上げるとともに、卒業生ならびに在学生のより一層のご活躍とご健勝を祈念致します。今後も社会教育学科の教員一同は、全力で教育に励んで参ります。



新刊紹介

BOOKS

新・社会心理学の基礎と展開



心理学科 教授
松井 洋 共編著
2014. 4.15発行
八千代出版

幼保一体化施設の運営と行財政



幼児教育学科 助教
手塚 崇子 著
2014年2月発行
専修大学出版局

カレント 社会・環境と健康 公衆衛生学



生活文化学科 教授
坂口 武洋 共著
北田 善三・須崎 尚 編著
2014. 2.20発行
定価：2,520円 建帛社

「女教員」と「母性」



近代日本における
〈職業と家庭の両立〉問題
児童教育学科 准教授
齋藤 慶子 著
2014年6月30日発行
六花出版

地域食材大百科 第13巻



ハム・ソーセージ・ベーコン、食用油脂、調味料・香辛料
生活文化学科 准教授
大坂 佳保里 共著
2014年1月発行
農山漁村文化協会

天野学術研究奨励賞 受賞

生活創造学部 生活文化学科 講師 **関目 綾子**

論文タイトル「コレシストキニン1受容体ノックアウトマウスにおけるアルコール摂取行動の性差」が第45回日本消化吸収学会総会にて同賞を受賞されました。

東京都議会議長賞 受賞

生活創造学部 生活文化学科 講師 **高橋 裕子**

タイトル《**炎**》(染色アート)
第16回 伝統手工芸 巧技ソサエティー美術展
平成26年6月18～22日
東京芸術劇場にて開催



オリエンテーション

国際英語学科

国際英語学科は、イギリスで唯美主義の時代に流行した様式で、しかも同時代に建てられた三菱一号館美術館で開催された「ザ・ビューティフル 英国の唯美主義 1860-1900」展を鑑賞しました。美術展の後、美味しい中国料理を囲んで、新しい友だちや先生たちとお話をしながら親睦を深めました。



史 学科

行田市にある埼玉古墳群とのぼりの城忍城にバスで出かけました。日本最大の円墳や武蔵国最大の前方後円墳に登り、古墳の大きさや構造を実感することができました。古墳の頂上から写真を撮ったり、古墳の全景を撮影するために必死で古墳の周囲を巡り、撮影スポットを探したりしました。古墳ツアーは、最高！ 久々に興奮しました。



忍城は復元されたものですが、のぼり様を思い出しながら見学しました。史学科に入ったことを実感できる楽しく、有意義な見学会でした。

日 本文化学科

江戸東京博物館の見学

江戸東京博物館では、実物大の日本橋や芝居小屋、人力車などに歓声を上げ、歴史や文化への理解を深めました。暖かな陽気に誘われて、桜並木や旧安田庭園を散策したのち、水上バスで浅草に移動。満開を迎えた兩岸の桜やスカイツリーを堪能しながら、雷門をくぐって浅草寺で2014年度の充実をみんなでお願いしました。新入生、留学生、教員一同、親睦を深めることができました。



心 理学科

今年の心理学科のオリエンテーションは、柏のクレストホテルで行われました。楽しく友達を作りながら!! 大学での学びを考えることのできた有意義な時間となりました。最初に目前に迫った授業開始に向けて「何をどのように」学ぶのか理解を深めました。その後美味しいランチを食べながら、新入生同士の親睦を深めました。



社 会教育学科

社会教育学科では成田山新勝寺をお参りました。ボランティアガイドの案内で、広い境内にある文化財や建造物について学び、御護摩祈禱にも参列しました。実際に自らの目で見たり、体験したりと社会教育学科らしい学びの後には、成田名物のうなぎを食し、ひと時の交流を持ちました。



児 童教育学科

満開の桜の上野公園で、午前には東博・平成館で特別展「栄西と建仁寺」を鑑賞しました。禅と茶の歴史を知るとともに、国宝の名品「風神雷神図屏風」をゆっくり拝見。その大らかな表現に依屋宗達の魅力を感じました。昼食は中国料理「過門香」で自己紹介をしながら、ひと時を楽しく過ごしました。そのあとに「国際子ども図書館」を訪ねました。なんと早くも、上橋菜穂子先生のコーナーが設けられていて、誇らしく思いました。



幼 児教育学科

桜が満開の船橋アンデルセン公園において、幼児教育学科1年生のオリエンテーションキャンプが行われました。上級生ボランティアと共にこれから始まる楽しい大学生活の話しながら花々に彩られた園内を散策したり、クラフト体験ではオリジナルの石鹸作りを行ったり、親指姫のスタジオでは舞台装置の素晴らしさに感動したりと盛りだくさんな体験をしました。きっと将来、子どもたちを連れて遠足にやってくるかもしれません。未来の保育者となった自身の姿を思い浮かべ、希望に満ちた一日となったことでしょう。



生 活文化学科

生活文化学科では、新入生へのお祝いの気持ちを込めて、校章の焼印つきハートどら焼きを用意しました。建学の精神を知る良い機会となり大変好評でした。4月4日には横浜新港地区にあるカップヌードルミュージアム、



赤レンガ倉庫を訪れました。逆転の発想から考えられたカップヌードル作りを学び、赤レンガ倉庫では昼食を楽しみながら親睦を深めました。

学科ニュース

国際英語学科

CAED (キャッド) 発足!!

国際英語学科では、オープンキャンパスを支援する学生のチーム、「国際英語学科キャンパス・アテンダント」、略称CAED (キャッド) を発足させました。4班に分かれて交代でオープンキャンパスを担当し、受験生や保護者にどう対応するか、学科の魅力をいかにアピールするかを工夫します。この活動を通して、社会で役立つ対人関係スキルや自己アピール力を身につけてほしいと願っています。



日本文化学科

中山医学大学からの留学生

ジブリ大好きな留学生 洪依帆さんが、台湾から日本文化学科に仲間入りしました。来日前から茶道に強い関心を抱いていたので、日本人学生と一緒に侘び・寂びを学んでいます。先日は和室で正座してお濃茶をいただきました。また歌舞伎や能楽鑑賞教室に参加し、伝統芸能を鑑賞する機会ももちました。休日には女子大生らしく、スイーツのお店めぐりもしているそうです。



心理学科

今回は心理学科そのものではありませんが関係の深い大学院のうれしいニュースです。

昨年末に臨床心理士の試験がありました。受験資格は指定大学院(川村も一種指定校です)修了者です。一次筆記、二次面接という試験で全国の合格率は60%位というちょっと厄介な試験です。この試験で川村の平成13年度大学院修了者の合格率は何と91%でした。大変な優秀校です。この試験のため心理学科の先生方は春と夏に試験対策講座を実施しましたが、その努力のたまものでしょう。

社会教育学科

7月17日(木)の昼休み、社会教育学科の夏の恒例行事、流しそうめんを行いました。今年は就活や就職試験に忙しい4年生が中心となって事前準備を行い、当日は1年生から4年生までの31名が準備や片付けに参加しながら楽しみました。青竹のさわやかな香りを感じ、時折ちょっぴり吹く涼しい風が気持ちのいい、好天の下での楽しいひと時でした。



幼児教育学科

Tinysun「0歳からのコンサート」

幼児教育体験学習の一環として行われたTinysunのコンサート。キーボード・ヴォーカルを担当、作詞作曲も手がける谷有由子さんは本学科を卒業し、保育士&ミュージシャンとして活躍されています。幼児教育を志す後輩達を前に多彩な楽曲を披露、合間にリトミックや合奏を交え、大いに楽しませてくれました。素敵なトークは先輩からのメッセージとして心に残ったことと思います。



児童教育学科

こもれび近隣センターでのボランティア活動

6月1日(日)に行われた我孫子市こもれび近隣センターの「こもれびフェスタ」に2年生22名がボランティアとして参加し、大活躍しました。オープニングでは「恋するフォーチュンクッキー」をチーム児教で披露し、会の雰囲気盛り上げました。また、「こどもカルチャー教室」でも手作りおもちゃ遊びの工夫を重ねた甲斐があって、大勢の子どもたちに楽しんでもらうことができました。



観 光文化学科

今年度の新入生オリエンテーションは2回に分けて行われました。第1回目は浅草を訪ねました。浅草で着地型観光開発という新しい観光事業を学びました。第2回目は大学がある我孫子の街の散策です。それぞれ浅草の旅行会社の社長さんと我孫子のインフォメーション・センター長のレクチャーを聞き、そのあと皆でランチをいただきました。観光の実践授業と学生の親睦の両方を兼ねたオリエンテーションでした。



クラブ紹介

IESS E S SとはEnglish Speaking Societyの略です。私たちは、週1回お昼休みにお弁当を食べながら、ネイティブのキスチャック先生とプランカー先生と一緒に英会話を楽しんでいます。それ以外にも、国際英語学科と共催で学園祭でのスピーチ&レシテーションコンテストや10月のハロウィンパーティー、12月のクリスマスパーティーも行っています。国際英語学科以外の学生で英語に関心ある人も参加して英語力UPに頑張っています。

